

# 山陰教区 門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 橋本正嗣  
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



山陰教区・本願寺山陰教堂 親鸞聖人御誕生  
八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要

二〇二二(令和四)年十月三日(月)、出雲市民会館大ホールにて修行しました。

教区内から五七六名のご参拝をいただきました。新型コロナウイルス感染症が予断を許さない状況であり、人数制限を設け、座席を一席ずつ空けてお座りいただきました。

教区の新しい取り組みとしてオンライン配信を実施。山陰教区ホームページで録画映像が視聴いただけます。

(二〇二三年五月三十一日まで)

## 課題山積の時

山陰教区門徒総代会 会長 橋本正嗣

私ごと、この度山陰教区門徒総代会の会長をお引き受けすることとなりました。

所属する組・寺院名は鹿足組・山教寺と申しまして、教区の中で一番西側にあり、山口県と隣接していて松江から約二〇〇キロもあり遠隔かつ不便な所です。加えて自身浅学非才であり、果して皆様のご負託にお応え出来るかと不安ではあります。ご指導・ご鞭撻のもと努力させていただければと思っております。

さて昨今、国内外においていろいろ起きている事柄の中で、極めて私の見解ではあります。が、何故こんなことが起きているのか、浄土真宗のみ教えに照らし合わせても許せない事にロシアのウクライナ侵攻と、安倍元総理を凶弾でもって殺害したこと、またそれに端を発して次から次へと明らかになった旧世界統一教会への高額献金問題と被害の数々の二点があります。

一方的かつ独善的な解釈だけで数々の殺りくを行い、人権を踏みじり、「世のなか安穏なれ」の願いとは真逆な行為が行われているのを見るにつけ暗い気持ちになります。こうした事柄に対して宗教的活動としても問題視したり、論議を重ねたりすることがもつとあっても良いのではないかと思うところ

るであります。

また、最近のコロナ禍の中で法座や法要等の行事が中止やむなきことが多くなったり、ご葬儀等も簡略化が普通となっております。

この様なことが、コロナ禍が収束し平常にかえった時でも通常化するのではないかと懸念もあります。

一方人口減少、高齢化、世代交代の進展の中で、お寺と門信徒の繋がりが疎遠になったり希薄になったりすることで護持存続に支障をきたし、もってしてお聴聞の機会や門信徒同志の交流の機会が縮小するのでは、との心配もあります。

こうした課題への取り組みは各組・各寺院においてもいろいろとなされていると拝察いたしております。我が寺院においてもご住職と総代会、仏教壮年会、仏教婦人会の役員が一堂に会し、私たちが一体となつて課題を共有し心と力を合わせて課題解決のため取り組みましよう」と話しております。しかし実態はなかなかです。

必要なことは、信じるどころに道は拓けるとの信念を持ち継続することと思います。

山陰教区内の各組・各寺院それぞれが一体となつて限りなく前進されることを念じご挨拶とします。

合掌

## 二〇二二(令和四)年度 門徒総代会研修会

二〇二二(令和四)年十月  
六日(木)、本願寺山陰教堂教  
化センター研修室において、  
「山陰教区門徒総代会研修会」  
を開催しました。

研修会の講師は、菅原昭生  
師(大田西組西楽寺住職)。  
浄土真宗本願寺派「お寺のビ  
ジョン作成研修」の講師を務めて  
おられます。

「過疎地寺院のアガキとモガキ」  
『できるか、できないか』ではなく、  
『やるか、やらないか』と題し、  
お話しいただきました。

パワーポイント(パソコンのスラ  
イドショー)を用いた講義で、これか  
らの寺院運営のありかた、具体的  
な方策などを紹介くださいました。

過疎化・高齢化といった厳しい  
現実の前に、「二セの危機意識」で  
はなく「本物の危機意識」を持  
つ必要があるとのこと。「あるべきお  
寺」ではなく、お寺の個性に応じ  
て内側から出てくる「ありたいお  
寺」を目指すべきである、とお話  
しいただきました。

講義の中でご自坊での「アガキ  
とモガキ」の事例として、取り組  
みを紹介いただきました。



・「百人会」法座や九十九座寄席な  
どの法座・行事を企画。  
・インターネットを利用した仏事  
・行事の実施。

・葉書・LINEを使った「言の  
葉通信」。

・SNS(フェイスブック・ツイッ  
ター・インスタグラム・LINE  
E)を運用。

ここに挙げた以外にも、さまざま  
な取り組みをされておられます。

つつい、[できるか、できない  
か]を考えてしまいがちですが、大  
切なのは「やるか、やらないか」と  
いうことです。

ご講師は最後に、「これからがこ  
れまでを決める」と結ばれました。

昨年度同様、新型コロナウイルス  
感染症の拡大防止のため、各組  
二名の定員を設けて開催。参加人  
数は三十七名でした。

## 2022(令和4)年度 山陰教区門徒総代会研修会アンケート(抜粋)

### 1. この度の研修会について、日程・会場・開催方法 はいかがでしたか？

- 日程については特に希望はない。会場はできれば  
県中央の方が良い。
- 研修会の内容をYouTubeなどで配信するなどの方  
法もあると思います。HPの活用など検討してみ  
てはどうですか。
- 駐車場(玄関前)の駐車方法の工夫が必要(多く  
の車を止められるように)
- 日程・時期・会場・開催方法とも良いと思います。
- 短くもなく長くもなく、良かった。

### 2. この度のご講師のお話はいかがでしたか？

- 良くならない理由を考えるのではなく、できるこ  
とからやるのが良いと思いました。
- とても時代に合った講義で話がよくわかった。ど  
このお寺でもあてはまる内容で参考になった。具  
体的な内容があり、もっと多くの人と一緒に聞  
きたい。
- 具体的で、また、今日的な話題でよくわかりま  
した。これから、どうやるのかを考えていき  
たいと思います。ただ、ITはわかるまでがな  
かなか難しいかと思いましたが。
- インターネットを利用した仏事・行事は参考  
になった。
- かみくだいてわかりやすく話していただき  
て引き

込まれるように聞けた。

- 非常に良かった。講義がわかりやすかった。い  
ろいろな方法でつながりができていること、考  
え方が参考になった。
- 当寺院も高齢化に伴う門徒減少問題をかか  
えており、参考になりました。

### 3. 次回の研修会ではどのようなお話を聞いて みたいと思われませんか？

- インターネットを利用する事例をもっと多  
くの人と一緒に聞きたい。
- 本願寺の歴史。
- 門徒の維持について。
- 今回のような研修内容が必要だと痛切に思  
いました。お寺の生き残り策をテーマに継続  
実施を期待します。
- 各寺院の活動の良かった点・悪かった点  
などを聞きたい。今後の取り組みの参考  
にしたいから。

### 4. その他、お気づきのことがありましたらご 記入ください。

- 切り口を「寺」としないで「人」として  
取り組んでください。
- 関係者の皆さま、ありがとうございました。

# コロナ禍での大田東組の活動状況

大田東組 竹本 嘉人

大田東組は旧大田市内の三組が合併し四十か寺と大きな組織となり、「実践運動」を推進するためスローガンを、「伝える」から「伝わる」へとともにまなびとともに動こう」と掲げ、五部門十五部会での編成により「実践運動」を推進しています。コロナ禍の中、門徒総代会をはじめ組内の部会が連携した主な活動を紹介します。

【重点プロジェクト推進】「みんなの寺子屋」(地域を支える子ども縁づくり)「子どもたちに居場所を提供し健全育成を図ることを目的に、年十一回開催(今年で二年目)。主に小学生とその保護者を対象として現在十三家族十七名が参加。仏さまのお話、子ども報恩講、工作・おやつ作り、町内歴史散策、海岸清掃、レクリエーション等、各部会や若手僧侶もスタッフとして参加しながら寺院内外でのご縁づくりとして活動を進めています。(関連して、【仏教壮年会】では「子どもの貧困」、【NPO法人の立ち上げ】について研修会を開催。)

【門信徒・僧侶研修会】リモートでの講演会の開催や、市民にも呼びかけドキュメンタリー映画(『沖縄戦』、『アトム(の庭)』)を上映。また、【仏教女性会(仏婦)】を中心に、「浄土

真宗のみ教えとSDGs」をテーマに講演会を開催。運営や参加募集は門徒総代会も含め各部会が共催して行ったところ、講演のねらいや今後の課題・取り組みについて組全体で共有を図ることができました。

【連研】三期目の開催。現在十七名が十二の問いについての話し合い

法座を通し、取り組んでいます。最後に【門徒総代会】では、隔年の日帰り研修会と対面による研修会は中止、独自研修として「冊子」(※)を会員に配布し読後の感想を『組報』に掲載。また、「私たちのちかい」四か条を日々の生活の中で唱和し味わっていたり、携帯用(名刺版にラミネートを貼付)を作成し、会員に配布。また、去る十月三日の「山陰教区慶讃法要」を研修の一部と位置付け、参拝した門徒総代全員に参加経費を補助した結果、多数の方が参

拝し、法要のご縁を慶ぶことができました。

人口減少、過疎化、核家族化、仏事の簡素化等、お寺を取り巻く環境は厳しいといえます。門徒総代としての自覚を持ち「チーム大田東」で目指す「実践運動」の目標実現に向けての取り組みを、ともに進めていきたいと思えます。

※『私たちのちかい』の味わい』 徹宗著・『毎日を仏法という鏡に』 小池秀章著・『日々の暮らしと、【歎異抄】』 井上見淳著

## 山陰教区門徒総代会 各組代表理事名簿

任期：2022(令和4)年4月1日～2024(令和6)年3月31日

(敬称略)

### 各組代表理事

組名	所属寺	名前	5ブロック
鳥取因幡	浄善寺	竹内紀彦	新任
鳥取伯耆	真光寺	紙本克美	新任
松江	蓮教寺	古山亮二	新任
出雲	妙壽寺	榎野博巳	新任
神門	光林寺	神田進	新任
出雲南	慈眼寺	吾郷生善	新任
飯南	一念寺	大森民雄	再任
大田東	真浄寺	竹本嘉人	再任
大田中	玉泉寺	三井隆治	再任
大田西	明円寺	小川和邦	再任
佐波	明光寺	尾原繁樹	再任
川本	福常坊	東間宏之	再任
千須賀	西光寺	岡本明憲	再任
邑智東	光明寺	木村勇	新任
邑智西	西念寺	椿公章	再任
江津	正福寺	瀬頭龍平	再任
浜田	浄念寺	原田義則	新任
三隅	西方寺	山本光政	新任
益田	専光寺	吉村稔	再任
鹿足	圓教寺	橋本正嗣	再任

### 役員

役職	名前	備考
会長	橋本正嗣	
副会長	竹本嘉人	
副会長	吉村稔	
常任理事	紙本克美	鳥取ブロック
常任理事	大森民雄	出雲ブロック
常任理事	小川和邦	石東ブロック
常任理事	東間宏之	邑智ブロック
常任理事	原田義則	石西ブロック
監事	古山亮二	
監事	榎野博巳	

## 2021(令和3)年度 山陰教区門徒総代会 一般会計決算

自 2021(令和3)年4月1日 至 2022(令和4)年3月31日

## 【歳入の部】

款	項	費目	決算額	予算額	対比△減	説明
1		繰越金	769,442	769,442	0	
	1	前年度繰越金	769,442	769,442	0	令和2年度繰越金
2		会費	763,000	772,000	△9,000	
	1	当年度会費	763,000	772,000	△9,000	令和3年度会費
	2	前年度未収金	0	0	0	
3		研修会参加費	39,000	60,000	△21,000	
	1	研修会参加費	39,000	60,000	△21,000	第4連区研修会参加費
4		助成金	340,000	290,000	50,000	
	1	助成金	340,000	290,000	50,000	全国門徒総代会助成金(連区研修会助成金150,000円、組活動推進事業助成金30,000円、前年度助成金20,000円) 山陰教区助成金(連区研修会助成金70,000円、教区助成金70,000円)
5		雑収入	5,567	5,578	△11	
	1	雑収入	5,567	5,578	△11	預金利息等
		合計	1,917,009	1,897,020	19,989	

## 【歳出の部】

款	項	費目	決算額	予算額	対比※超過	説明
1		事業費	216,392	680,000	463,608	
	1	研修費	137,192	600,000	462,808	第4連区研修会開催経費
	2	会報印刷費	79,200	80,000	800	「門徒総代会だより」発行
2		会議費	168,401	250,000	81,599	
	1	理事会費	88,950	150,000	61,050	理事会(各組代表者)1回、会計監査
	2	常任理事会費	79,451	100,000	20,549	常任理事会2回
3		教化助成費	200,000	400,000	200,000	
	1	教化助成費	200,000	400,000	200,000	1組20,000円
4		組織強化費	30,000	30,000	0	
	1	組織強化費	30,000	30,000	0	全国門徒総代会教区負担金
5		事務費	30,957	90,000	59,043	
	1	通信印刷費	25,446	80,000	54,554	発信費
	2	諸費	5,511	10,000	4,489	振込手数料
6		雑費	0	10,000	10,000	
	1	雑費	0	10,000	10,000	
7		出向費	31,160	30,000	※1,160	
	1	全国門徒総代会費	11,228	10,000	※1,228	全国門徒総代会出席経費(オンライン)
	2	連絡協議会費	19,932	20,000	68	第4連区連絡協議会(オンライン)
8		予備費	0	407,020	407,020	
	1	予備費	0	407,020	407,020	
		合計	676,910	1,897,020	1,220,110	

歳入合計 1,917,009

歳出合計 676,910

差引金額 1,240,099

※2022(令和4)年度に繰越

## 編集後記

「インターネットを利用した伝事・行事は参考になった。」「インターネットを利用する事例をもっと多くの人と一緒に聞きたい。」

本年の総代会研修会を受講された方から、アンケートでこんなご感想をいただきました。

研修会の講義の中で、ご講師からはオンライン会議システムを活用した伝事・インターネットを活用した広報活動などの事例を紹介いただきました。

実践運動山陰教区委員会においても、オンライン会議システムの普及促進を進めることが検討されています。

その一方、委員会では、「機器の使い方がわかる人もいれば、わからない人もいる。そのことに留意して進めて欲しい。」のご意見もありました。

そういったお声もあることを心に留めながら、日々の事務を行っていきたいと思います。

(事務局)